



## 今週の T2 経済レポート

2020年12月18日

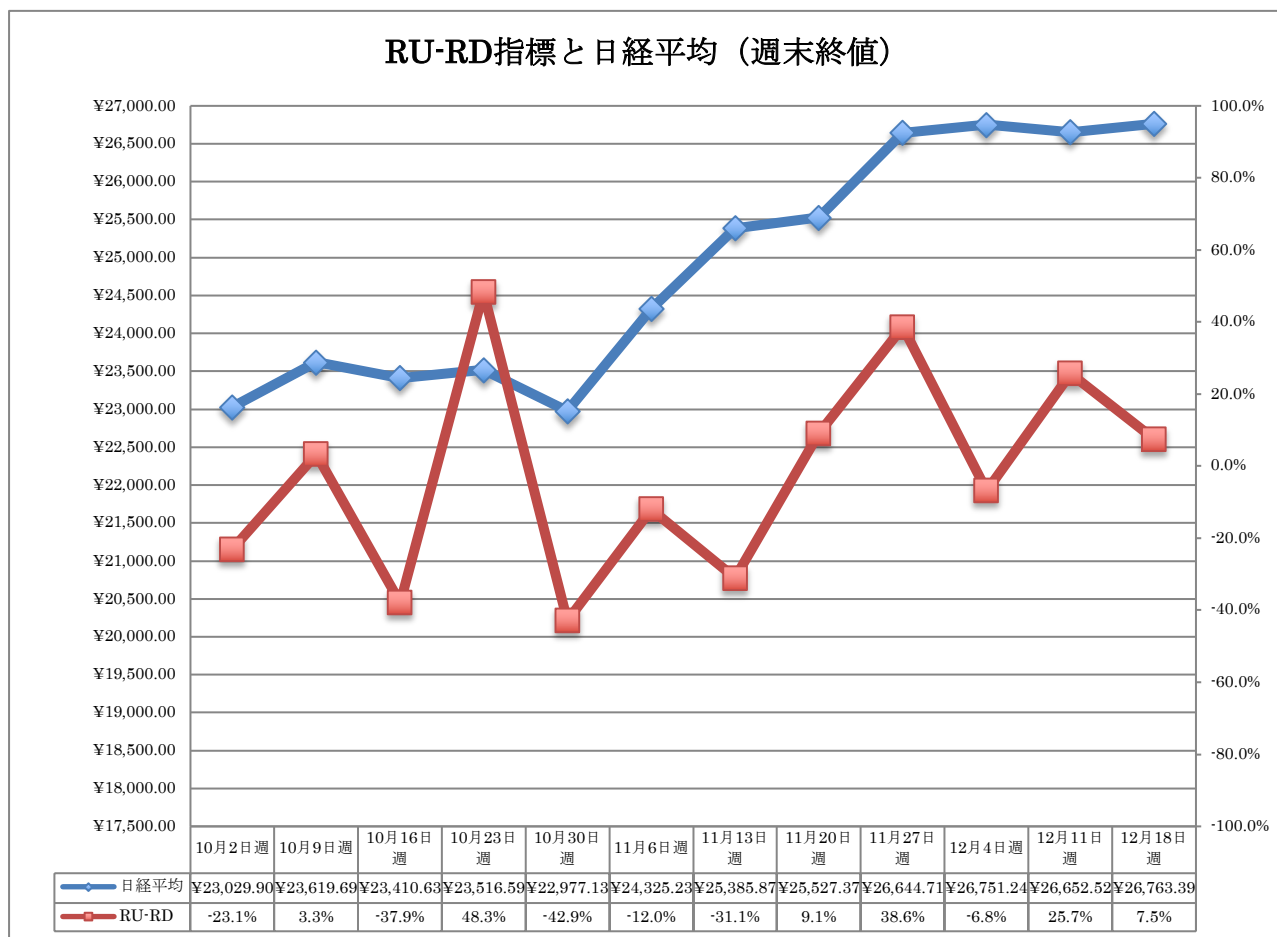
### ■■■ 市場ウオッチ ■■■

#### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場が継続する可能性が高い週となりそうです。今週(12/14~12/18)の相場を占う『RU-RD 指標』の12月4日週は+7.5%と2週連続プラス圏となったことから堅調相場が継続しそうです。ただ、来週(12/21~12/25)の相場を占う12月11日週は-40.0%と3週間振りにマイナス圏、かつ下限ゾーンまで一気に陥ったことで急落調整の可能性が出てきています。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+7.1%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%と18週連続プラス圏ですが、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破後、足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなカタチで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、14日に12月調査日銀短観、10月第三次産業活動、16日に11月貿易統計、11月訪日外客数、17日に11月首都圏新規マンション発売、18日に11月全国消費者物価指数、一方、海外は、15日に米12月NY連銀製造業景気指数、米11月輸出入物価、米11月鉱工業生産・設備稼働率、中国11月工業生産・11月小売売上高、16日に米11月小売売上高、米12月NAHB住宅市場指数、17日に米11月住宅着工件数、米11月建設許可件数、米12月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、18日に米7-9月期経常収支、などの発表が予定されています。16日発表の11月小売売上高は前月比-0.2%と、10月の同+0.3%から悪化する可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は17日に日銀金融政策決定会合(18日まで)、18日に黒田日銀総裁会見、一方、海外は、14日に米大統領選挙の選挙人による投票、欧州

議会本会議(17日まで)、15日にFOMC(米連邦公開市場委員会、16日まで)、16日にパウエルFRB議長会見(経済見通し発表)と注目イベントが続く予定です。特に、14日に米大統領選挙の選挙人による投票を迎えますが、混迷続く米大統領選挙の行方を占ううえでもスムーズに投票されるのかが注目されます。」とコメントしました。



11月27日週	12月4日週	12月11日週	12月18日週
¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52	¥26,763.39
38.6%	-6.8%	25.7%	7.5%

先週の日経平均は、高値 26874 円(12月16日)・安値 26605 円(12月15日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、週初、政府が観光需要喚起策「Go To Travel」を全国で停止すると発表したことを嫌気して一時下げ幅を拡げましたが、米モデルナが開発した新型ワクチンの緊急使用認可や追加経済対策への合意期待などで米国株が急伸、それを受けて年初来高値 26894 円に迫る場面もありましたが、為替が一時 1ドル=102 円台となる円高への警戒感で上値目標値は達成できず、週間ベースで+111 円高と前の週と異なり反発したものの小幅反発で終了し

ています(先週予告していた上値メド 27113 円～27655 円(+2%かい離)//下値メド 26459 円～25929 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、11月25日に26500円大台替えで仕切り直しが入りました。27000円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、26000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、11月15日までに26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。27000円大台替えで仕切り直し、逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、11月中に27000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。28000円大台替えで仕切り直し、逆に、25000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→となり、再び短期が強含みとなり目先上昇加速しますが、中長期は方向感がなくなり、上昇の勢いが無くなると乱高下しやすいかたちに変化しています。

日経平均を左右するNYダウは、高値30343ドル(12月18日)・安値29849ドル(12月14日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、米国内で新型コロナウイルスワクチン接種が始まったほか、12月15-16日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合で、ゼロ金利を2023年まで維持する見通しや最大雇用やインフレ2%での安定という目標達成に著しく近づくまで量的緩和(QE)を継続する長期にわたり大規模緩和を維持する姿勢から史上最高値付近まで上昇しましたが、議会で協議されている9000億ドル規模の追加経済対策法案の年内成立が難しいとの見方から上値目標値は達成できず、週間ベースでは+133ドル高と前の週と異なり反発したものの、小幅反発で終了しています(先週予告していた上値メド 30520ドル～31130ドル(+2%かい離)//下値メド 29741ドル～29146ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、12月1日に30000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。30500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、29500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、11月14日までに30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、11月中に31000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯でしたが実現せず時間切れ。31000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期→、長期→、となり、中長期が方向感なく乱高下しやすいなかで、目先、上下しているかたちで、方向感が出るまでこのようなかたちが継続しそうです。

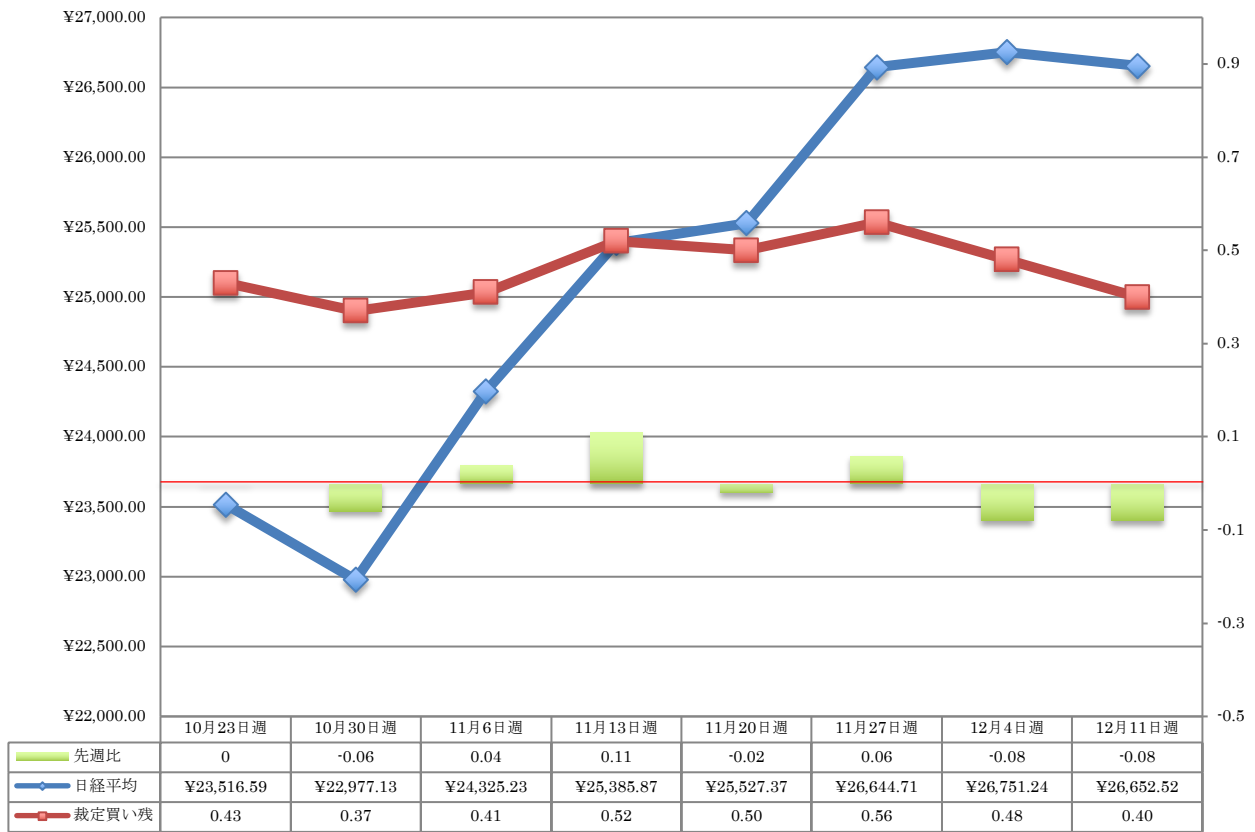
一方、為替は、ドル・円が104.14円～102.86円(先週予告していた上値メド 104.61円～105.65円(+1%かい離)//下値メド 103.64円～102.60円(-1%かい離))と推移、下値両目標値を達成して実質4週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.2273～1.2109(先週予告していた上値メド 1.2287～1.2409(+1%かい離)//下値メド 1.2091～1.1970(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しませんでした。実質3週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、127.01円～125.68

円(先週予告していた上値メド 127.79 円～129.06 円(+1%かい離)//下値メド 126.08 円～124.81 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成して 3 週間振りに円高・ユーロ安。前の週のユーロ >円>ドルから円>ユーロ>ドルに 3 週間振りに変化していますが、ドル安は 3 週連続で継続しています。NY で 1 日の感染者数が過去最高に増加し、制限措置強化による経済活動縮小への懸念が強まった他、FRB が 15-16 日に開催した連邦公開市場委員会(FOMC)で政策金利の据え置きを決定、資産買入れ規模は変更せず、2023 年まで実質ゼロ金利政策維持の方針を改めて示したことから金利先高観後退でドル買いが縮小したかたちです。

### <裁定買い残・裁定売り残>

2 週連続で減少。3 月 23 日週に今年 1 月以来となる 7000 億円台に回復後、反動減がまだ続いている状況です。一方、「裁定売り残」は、前の週比-2740 億円の 1 兆 4152 億円と、前の週と異なり減少。先週は 1 週増加しましたが、ここ 5 週間で 6228 億円減少しており、日経平均が 29 年振りに 26000 円大台を回復した牽引役の一つとなっています。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

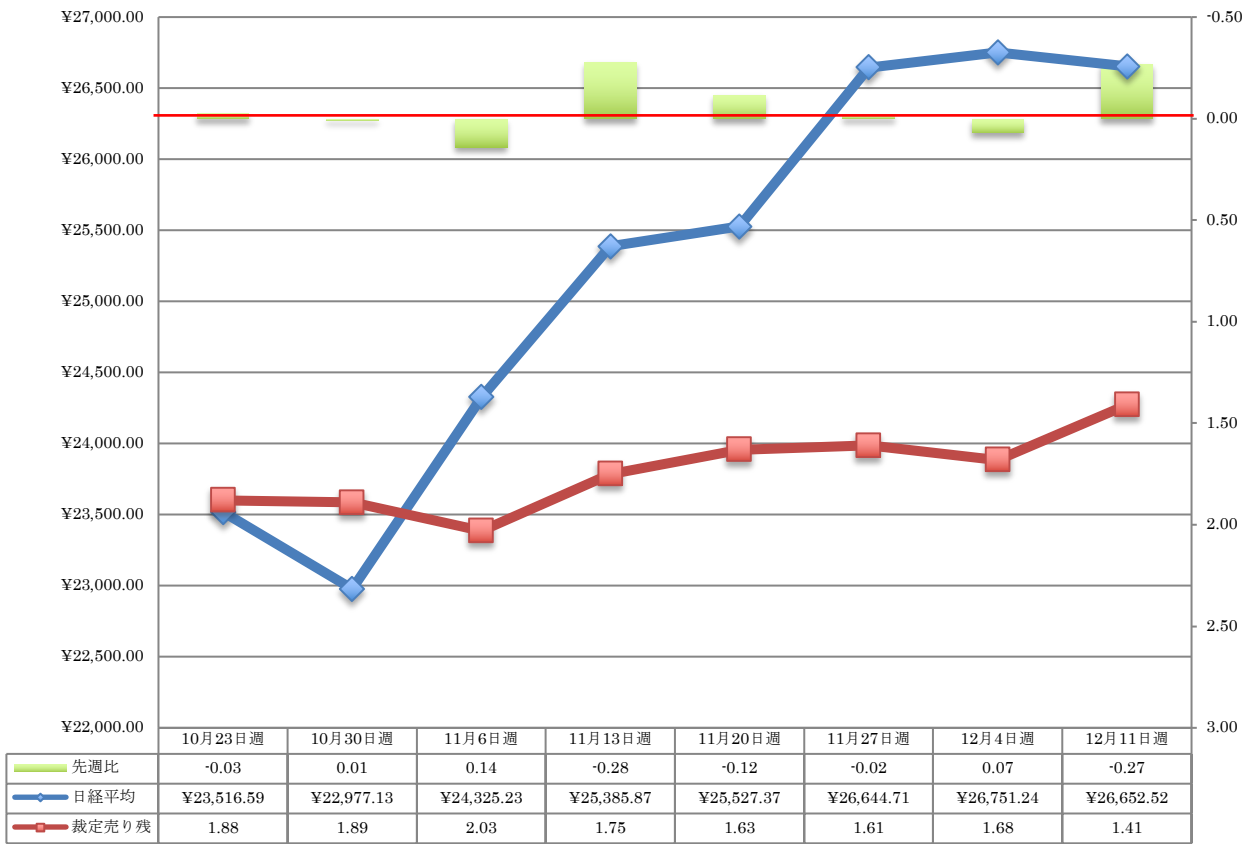
### 裁定買い残と先週比



11月20日週	11月27日週	12月4日週	12月11日週
¥25,527.37	¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52
0.5	0.56	0.48	0.40
-0.02	0.06	-0.08	-0.08

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



11月20日週	11月27日週	12月4日週	12月11日週
¥25,527.37	¥26,644.71	¥26,751.24	¥26,652.52
1.63	1.61	1.68	1.41
-0.12	-0.02	0.07	-0.27

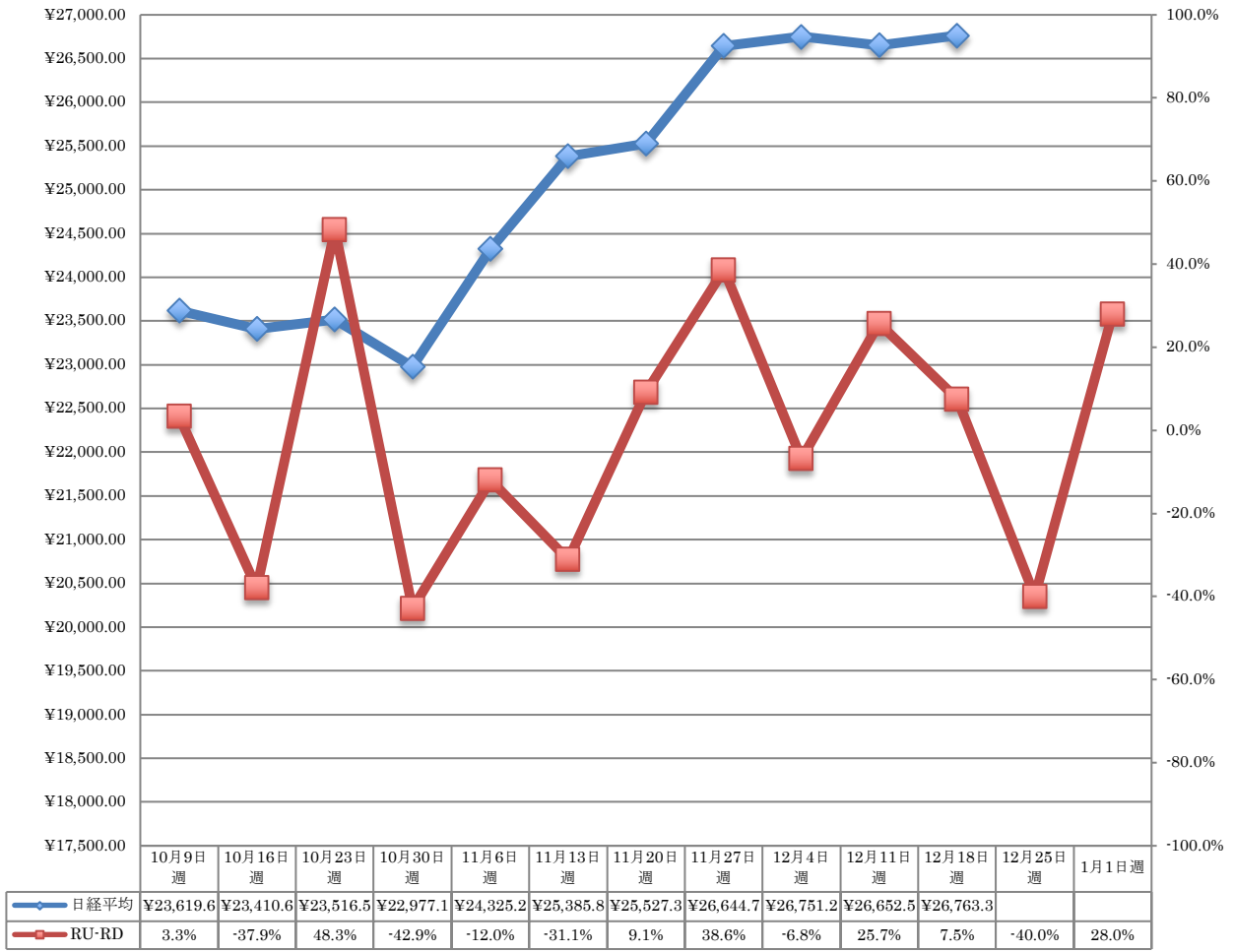
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は急落調整の可能性が高い週となりそうです。今週(12/21~12/25)の相場を占う『RU-RD 指標』の12月11日週は-40.0%と3週間振りにマイナス圏、かつ下限ゾーンまで一気に陥ったことで急落調整の可能性が出てきています。ただ、来週(12/28~1/1)の相場を占う12月18日週は+28.0%と逆に、プラス圏に浮上していることから急反発が期待されます。いつも指摘していますが、今回のようにプラス圏とマイナス圏が毎週、交互に繰り返すときは方向感がないため、今週、急落調整が起きないときは、来週の急反発も起きにくいと考えた方が良いかたちです。年末が近づいていますが、12月相場は急騰した11月とは異なり、高値圏でのボックス相場が続いていることを示しています。クリスマスまでは休憩モードですが、その後、外国人がどのようなポジション調整をするのかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%と19週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬ですが上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、24日に11月企業向けサービス価格指数、25日に11月失業率・有効求人倍率、11月商業動態統計、一方、海外は、22日に米7-9月期GDP確報値、米11月中古住宅販売件数、23日に米11月個人所得・個人支出、米11月新築住宅販売件数、米11月耐久財受注、米10月FHFA住宅価格指数の発表が予定されています。22日発表予定の米7-9月期国内総生産(GDP)確定値は、速報値と改定値の前期比年率+33.1%を維持できるかが注目され、下方修正された場合はドル売り要因となりそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は23日に10月28・29日の日銀金融政策決定会合議事録公表、このほか、21日から25日にかけて12銘柄が東証にIPO見込み、一方、海外は21日に米電気自動車メーカーのテスラがS&P500種株価指数の構成銘柄に新規採用、米英は24日はクリスマス・イブのため短縮取引、25日はクリスマスのため休場となります。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



12月11日週	12月18日週	12月25日週	1月1日週
¥26,652.52	¥26,763.39		
25.70%	7.50%	-40.00%	28.00%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 26986 円～27525 円 (+2%かい離)

下値メモ 26459 円～25929 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 30529 ドル～31139 ドル (+2%かい離)

下値メモ 29896 ドル～29298 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 103.96 円～104.99 円 (+1%かい離)

下値メモ 103.04 円～102.00 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.2315～1.2438 (+1%かい離)

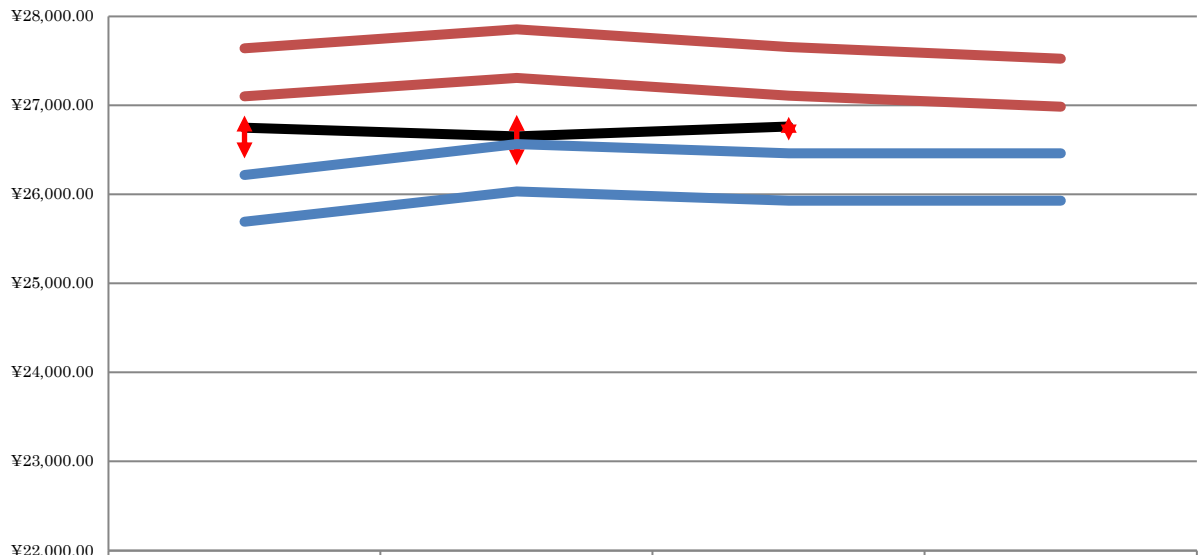
下値メモ 1.2131～1.2009 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 127.61 円～128.88 円 (+1%かい離)

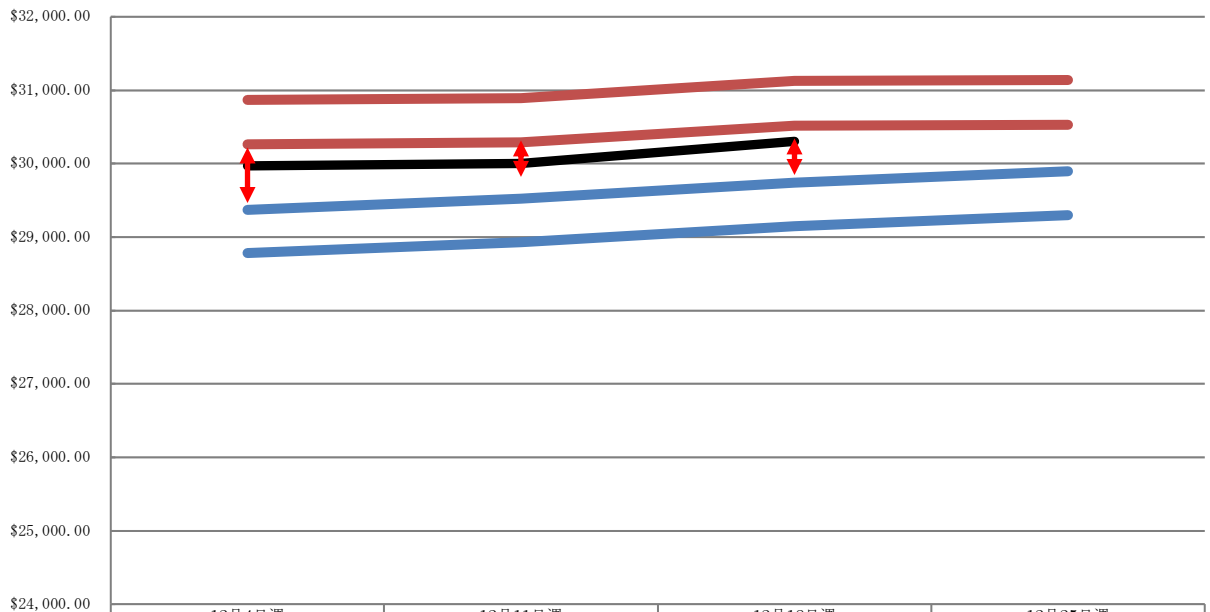
下値メモ 125.88 円～124.62 円 (-1%かい離)

### 日経平均



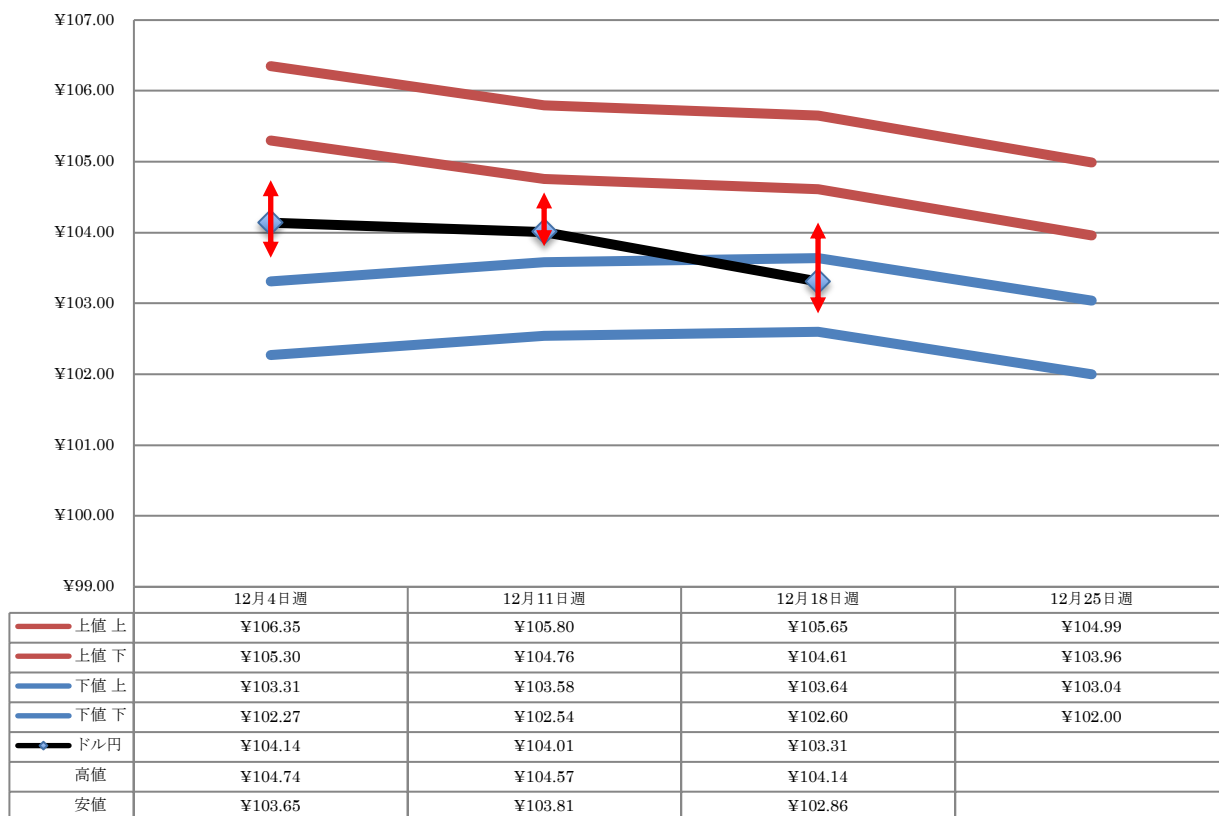
	12月4日週	12月11日週	12月18日週	12月25日週
— 日経平均	¥26,751.24	¥26,652.52	¥26,763.39	
— 高値	¥26,889.90	¥26,894.25	¥26,874.98	
— 安値	¥26,405.83	¥26,327.08	¥26,605.54	
— 上値 上	¥27,643	¥27,855	¥27,655	¥27,525
— 上値 下	¥27,101	¥27,309	¥27,113	¥26,986
— 下値 上	¥26,219	¥26,566	¥26,459	¥26,459
— 下値 下	¥25,694	¥26,034	¥25,929	¥25,929

### NYダウ

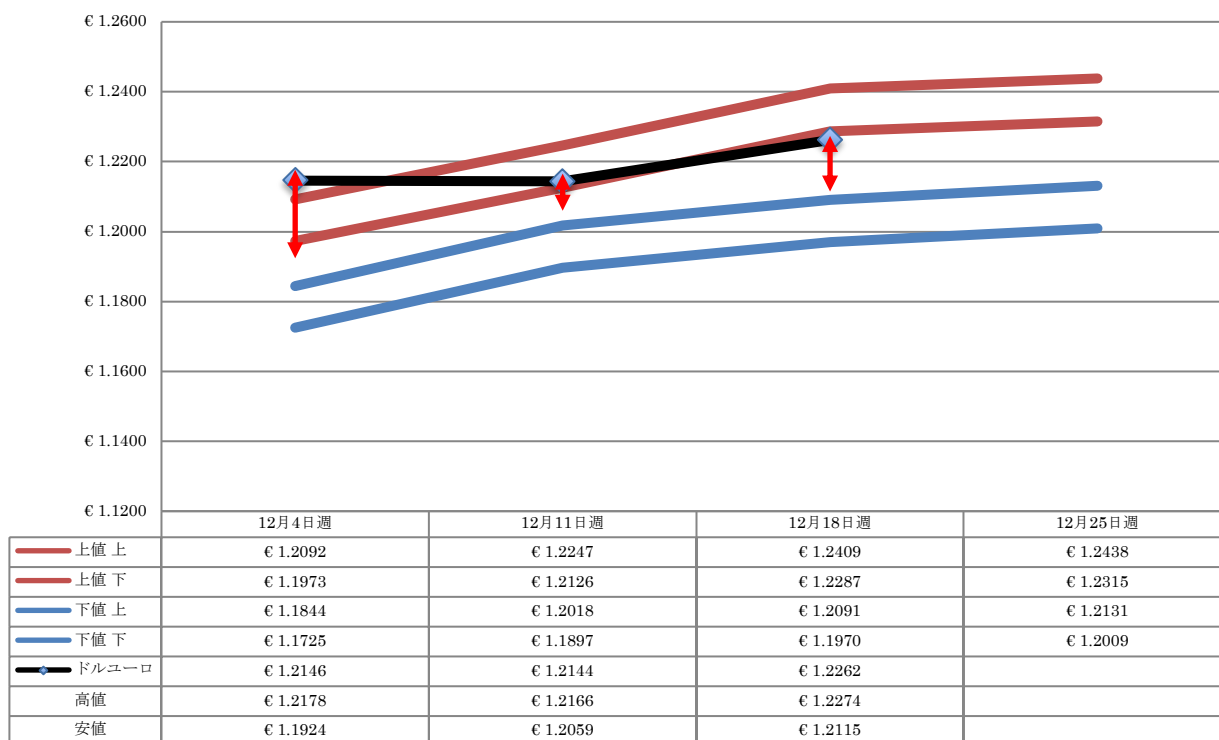


	12月4日週	12月11日週	12月18日週	12月25日週
— NYダウ	\$29,969.52	\$29,999.26	\$30,303.37	
— 上値 上	\$30,868	\$30,893	\$31,130	\$31,139
— 上値 下	\$30,263	\$30,288	\$30,520	\$30,529
— 下値 上	\$29,370	\$29,522	\$29,741	\$29,896
— 下値 下	\$28,782	\$28,931	\$29,146	\$29,298
— 高値	\$30,218.26	\$30,319.70	\$30,343.59	
— 安値	\$29,463.64	\$29,820.84	\$29,849.15	

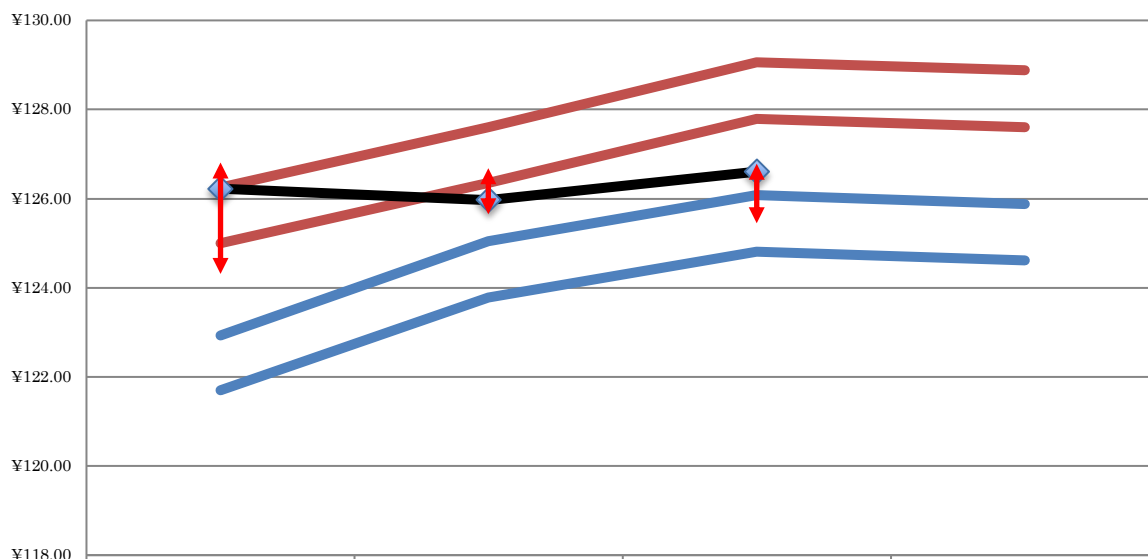
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

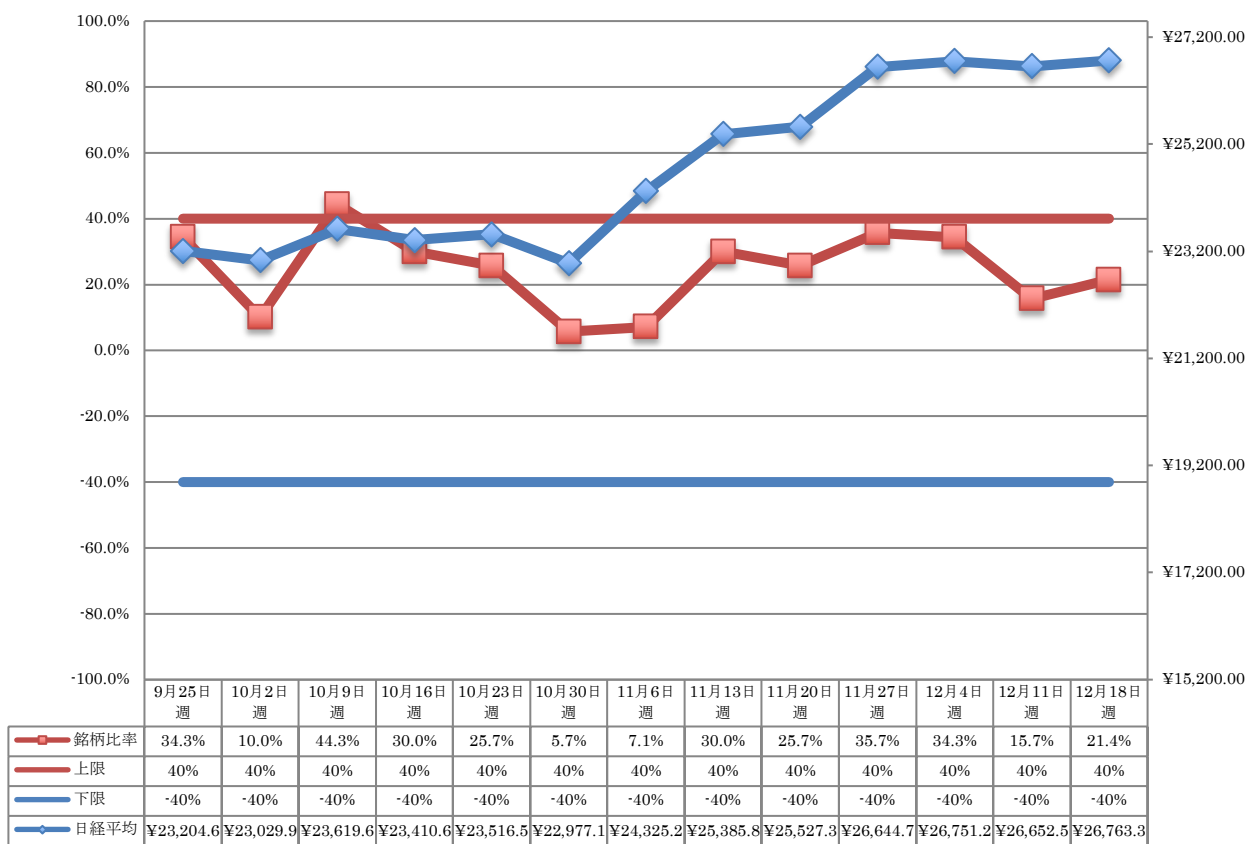


	12月4日週	12月11日週	12月18日週	12月25日週
上値上	¥126.25	¥127.61	¥129.06	¥128.88
上値下	¥125.00	¥126.35	¥127.79	¥127.61
下値上	¥122.93	¥125.04	¥126.08	¥125.88
下値下	¥121.70	¥123.78	¥124.81	¥124.62
ドルユーロ	¥126.22	¥125.97	¥126.61	
高値	¥126.81	¥126.69	¥126.78	
安値	¥124.31	¥125.65	¥125.45	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%と19週連続プラス圏ですが、9月4日週、10月9日週の2度、一瞬ですが上限ゾーンを突破したものの上限ゾーンが継続するような状態とはならず足踏みが続いています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、一方では『大台替えと時間の物理学的法則』で中長期の方向感がなくなっていることから今回はどのようなかたちで目先、天井圏形成となるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。